

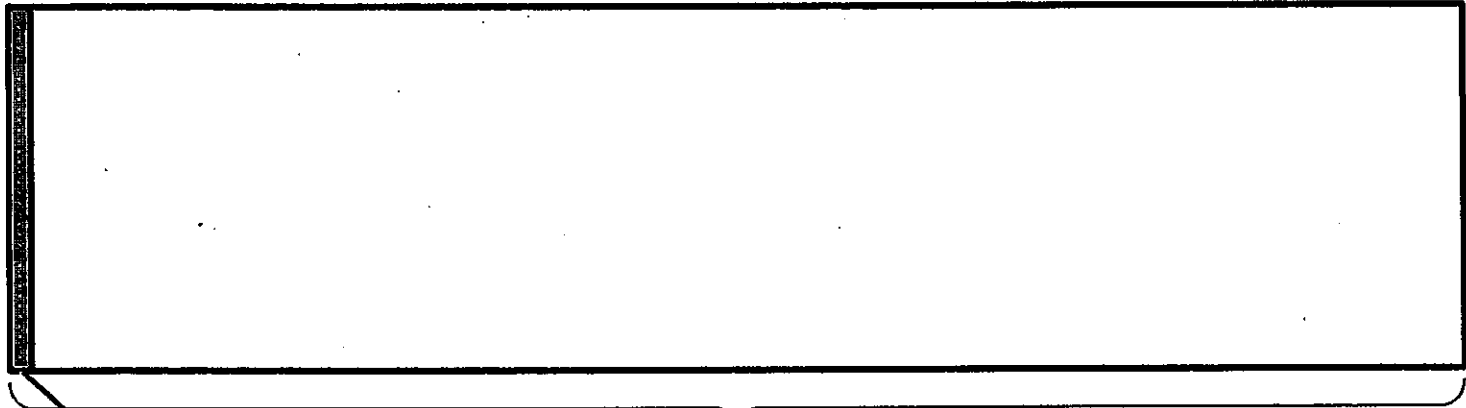
- 現行の国家貿易制度を維持するとともに、枠外税率(341円/kg、約2万円/60kg)を維持。
- 米国、豪州にSBS方式※の国別枠(発効初年度から3年間:5.6万ト→13年目以降:合計最大7.84万ト。日本の生産量の約1%)を設定するが、枠数量の全量を輸入することを約束したものではない。

※ SBS方式とは、国家貿易の下で、輸入業者と国内の実需者との実質的な直接取引を可能とする売買方式。

- 「TPP関連政策大綱」に基づき、国別枠で輸入される数量に相当する国産米を政府が備蓄米として買い入れ、主食用米の需給・価格への影響を遮断。

※ 棚上備蓄の基本的な枠組みは維持し、100万ト程度としている適正備蓄水準を増加させることなく、国別枠の輸入量に相当する国産米を政府が追加的に備蓄米として買い入れ、保管年数をそれに応じて短縮。

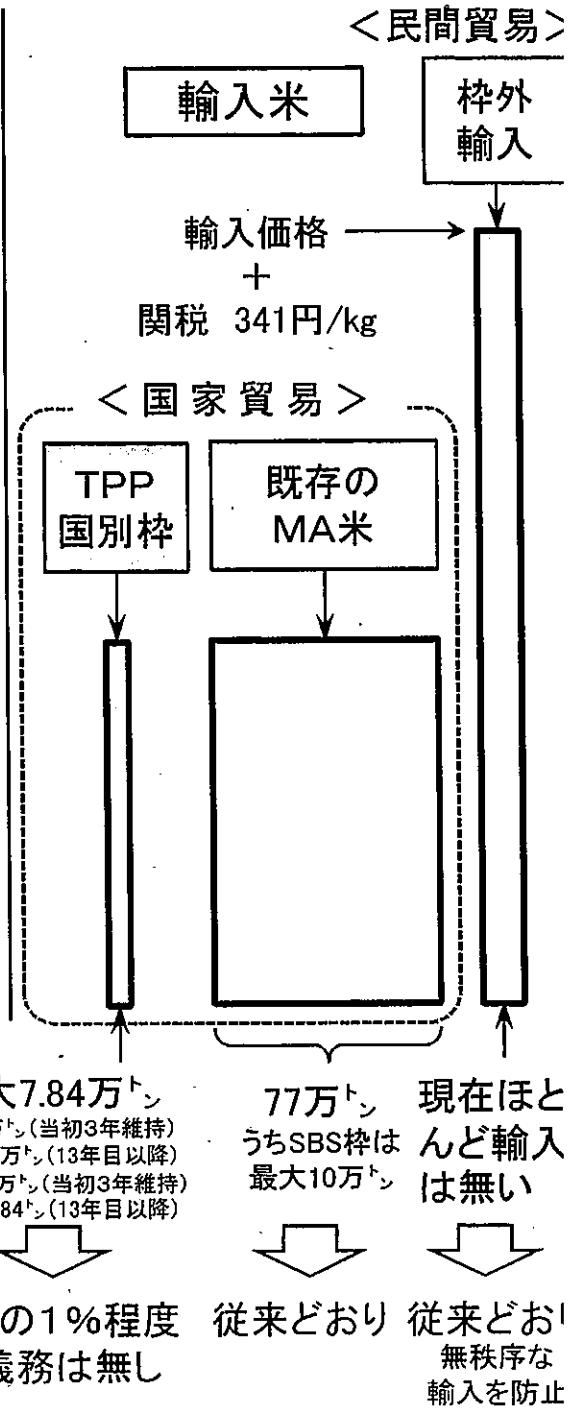
国産米



約800万トン

備蓄米へ

〔TPP対策として、国別枠の輸入量相当の国産米を備蓄米として買い入れ〕



輸入米に関する調査結果について

□ SBS入札に関して、民間事業者間の金銭のやりとりの報道があったことから、農林水産省が関連事業者へのヒアリングや関連データの分析などを行い、調査結果を公表(平成28年10月7日)。

※ SBS方式とは、国家貿易の下で、輸入業者と国内の実需者との実質的な直接取引を可能とする売買方式。

□ 調査の結果、国産米の価格は国産米自体の品質及び需給によって決まっており、SBS米は国産米の需給及び価格に影響を与えていないことが確認された。

○関連事業者へのヒアリング

過去5年間にSBS米を落札した全業者を対象にヒアリングを行った結果、金銭のやりとりはある程度あったことが確認されたが、SBS米の販売価格を決定する際は、国産米価格の水準を主な考慮事項としていることが明らかになった。

○関連データの分析

毎月の国産米価格のデータを分析すると、SBS入札日の月と翌月で、国産米価格はほとんど変動していないことも確認された。

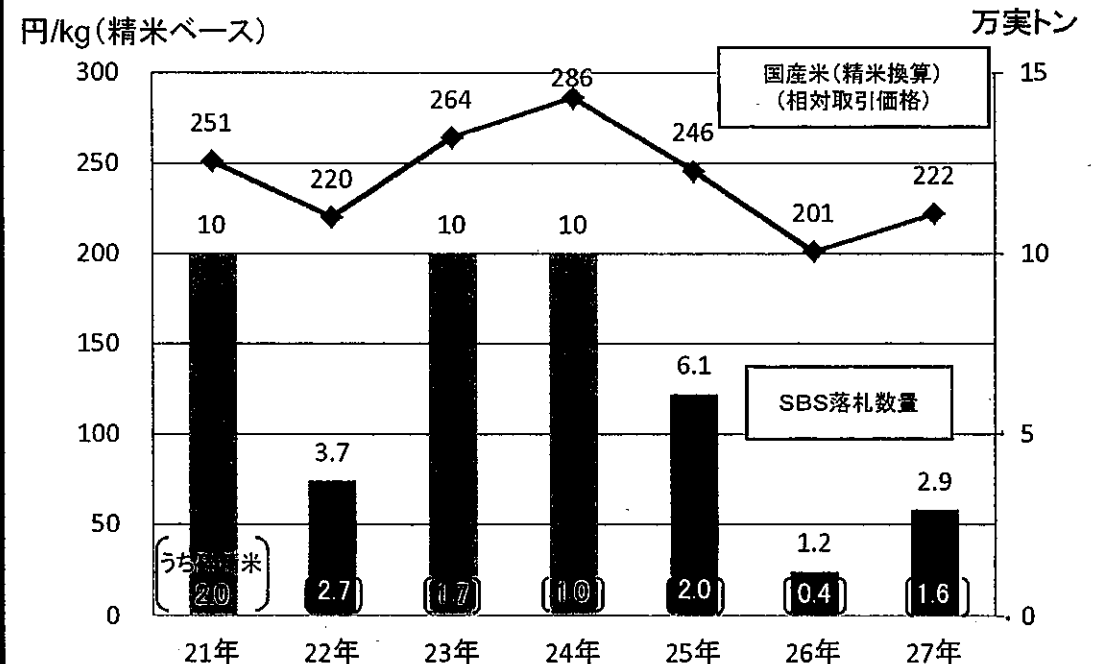
また、国産米の価格が比較的高い年はSBS輸入の枠数量の全量が輸入されている一方で、国産米の価格が低い年ほどSBS米の輸入量が減少している。

○契約内容の改善

SBSの契約項目として、輸入業者と買受業者との金銭のやりとりを行ってはならないことを明記するとともに、これに違反した場合、SBS入札資格の停止又は取消等の措置を講ずることとしている。

国産米の価格とSBS落札数量の関係

国産米価格が高いほどSBS米の輸入量が多く、国産米価格が安いほどSBS米の輸入量が少なくなっており、SBS米の輸入が国産米の価格を押し下げているという状況にはなっていない。



注) 砕精米とは、専ら加工用に用いられる砕けた米。